

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0192300036		
法人名	株式会社ケアサポート		
事業所名	グループホーム和みの郷ケアサポート共和		
所在地	岩内郡共和町前田11-15		
自己評価作成日	令和5年02月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192300036-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和5年03月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は道内でも介護施設等福祉施設での虐待を耳にする機会が増え、当事業所では接遇、虐待防止に関する意識向上を図った。コロナ過ではあるが地域の感染状況を見ながらレクリエーション活動や行事も行うことができた。また、職員に学びの機会を確保するためにオンライン研修を導入した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、共和町の西方向にある閑静な地域に位置している平屋建て2ユニットのグループホームである。共和町初のグループホームで、開設5周年を迎え、近隣には幼児センターもあり、自然豊かな地区である。法人は、平成11年から札幌市を中心に介護付き有料老人ホームを運営しており、培われた経験を活かしている。当事業所は、外観は玄関から八の字の台形型になっており、左右対称のユニットの作りで居室が両サイドに配置されている。広くゆったりとした食堂とリビングがあり、大きな窓からは暖かい陽射しが溢れている。地域の方がホームの看板を作ってくれたり、屋根の雪下ろしや除雪、夏には草刈りも手伝ってくれるなど、地域に支えられたアットホームな事業所である。これからも地域の認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念、ケア理念については入社時のオリエンテーション、入職時研修で説明している。施設内、玄関へ理念を掲示し、職員は理念を意識しながら日々のケアに努めている。	事業所玄関と各ユニットの事務所内に理念が掲示されている。また、入職時と年度替わりの際に理念に触れ、日々意識し実践につながるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共和町文化祭というイベントに当ホームのレクリエーションで作った作品を展示し、地域の方々に知ってもらえる機会となった。	コロナ禍のため限られた形での付き合いとなっているが、11月に開催された町の文化祭に利用者で作った作品を展示したり、かかし作りに参加するなど、地域の一員として地域との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長は地域包括支援センター主催の認知症家族交流会へアドバイザーとして参加を継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、会議は紙面会議で継続している状況である。	コロナ禍のため、2ヶ月に1回、書面会議で実施している。利用者家族や町の担当者、地域包括支援センターの担当者などの参加予定者へ議事録と意見用紙を送付し、運営状況の報告及び意見のフィードバックを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課、担当者様などとは訪問やメール等で頻回に情報交換や支援をいただいている。	町役場へ直接伺い、事業所の実情や地域の状況などについて、担当者と情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1回、身体拘束廃止検討委員会を開催している。また、年に2回内部研修を実施し、意識向上に努めている。	2ヶ月に1回、朝礼前に身体拘束廃止検討委員会を開催している。また、年に2回の内部研修を実施し、指針やマニュアルに沿って身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1回、身体拘束廃止検討委員会と同時に虐待防止委員会を開催している。内部研修の他、最新の情報提供も随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用事例はないが内部研修で資料を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は書面だけでのやり取りは原則行わず訪問又は来所していただき、口頭で説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、年に1回アンケートを実施している。	玄関には意見箱を設置し、毎月ホーム便りに担当者からの手紙を添えて家族に送付している。また、来訪時には担当者ごとに利用者家族とやり取りをして、意見を聞き取り運営に反映させている。	年に1度アンケートを実施し、利用者家族からの意見を徴収し、会議の場で職員へ周知するなど、それらを運営に反映することを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特にこれといった場は設けていないが、ユニット会議を活用し、日常的にも職員からの提案は受付ている。	1～2ヶ月に1度のユニット会議にて、職員意見を聞き取っている。また、年に1回、全職員との面談と必要時に面談を実施し、職員からの意見や提案を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回人事考課を行い代表者へは施設長より報告している。能力評価を定期昇給、賞与、昇進などに反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度よりオンライン研修を導入し、各職員が受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	隣町のGHとは交流ができている。情報交換や相互支援など連携を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず居住先を訪問しアセスメントを行っている。また、入居に不安のある方には入居前に数回見学に来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居のお問い合わせ後には、一度施設に来ていただき見学、入居についてを直接説明し情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で対応できること、できないことを説明したうえで家族に同意をいただいている。その際に重度化した場合の移り住みの可能性についても事前に説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意、不得意に考慮してできることを行っている。男性入居者様では玄関前の除雪をお手伝いしていただくこともある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当職員からのお手紙で定期報告を行うほか、相談などは随時電話連絡、来訪時に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、オンライン面会、電話で交流ができるように努めている。	コロナ禍のため、時間や人数の制限を設けて玄関先での面会を実施している。また、遠方の方にはLINEや電話を活用し、利用者家族との交流を支援し、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性が保たれるように食事席に配慮したり、レクリエーションでも楽しめるように組合せ等に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された場合には転居先への情報提供を必要に応じて行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が可能な方には基本、自己決定していただくことを基本に対応している。飲み物、食べたいものなど複数の選択肢から選べるように心がけている。	日常のケアの中で利用者の意向を確認し自己決定している。また、意思表示が困難な方は、家族から情報を聞き取るなど、本人の自己決定を促せるような仕組み作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族との会話のなかで情報収集している。また、重要なことは記録に落とし込み全体で情報共有が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できなくなってきたことなどの情報共有は随時おこなっており、モニタリングの際に計画作成担当者へ報告している。状態に応じてケアプランを見直すなど対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議には他職種が参加し、各方面からの意見を収集している。	毎月のケース会議にてカンファレンスを行い、利用者ごとの担当者が日々の様子等をまとめ、毎月モニタリングを行っている。また、利用者本人や家族の意向を計画作成担当者に取りまとめ、6ヶ月毎に更新し現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他、排せつ、水分などの記録にも力をいれ、提供方法や種類などを把握することで、誘導のタイミングで失禁を予防するなど工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲内ではあるがご家族の要望に応えられるように努めている。また、対応できない場合には違う方法を紹介するなど対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報を素早くキャッチし、活用できることがあれば随時検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業者の都合を優先せずに医療機関は選択していただいている。ご家族が受診同行される場合には、必要な情報提供も行っている。	利用者及び家族等の希望を大切にして、かかりつけ医を選定している。内科以外の他科受診は、町以外の病院を受診するなど適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な部分に関しては看護師が中心となり指示系統が確立されている。また、不在時でも電話相談も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のSWと状態の確認など連携を図っている。また、退院時にはできるだけ職員がお迎えにいき関係者から情報を収集している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて、できるだけ早い段階で予測されることやリスクをお伝えしている。また、状態にあったサービスを紹介するなどの支援もしている。	基本的に重度化した場合には、他の医療機関で対応しているが、利用者の医療ニーズの状況に合わせ対応している。終末期の意向確認については、入所契約時や状況変化時に家族に確認し、主治医とともにチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の他、緊急時に備えた手順フロー、緊急持出ファイルを各ユニットに準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の他、備品も準備している。昨年度に引き続きコロナ対策の為、訓練に地域の方は参加していない。	火災による避難訓練は日中と夜間で年各1回実施し、地震による避難訓練は年1回実施している。ランタンやガスコンロ、電池式のストーブなど災害時の備品も整備、点検されている。	BCP対策マニュアルに基づいた避難訓練を実施し、非常時の安定的・継続的なサービスが提供できること及び地域の方が参加できる訓練が実施できるよう期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては年間を通して意識の向上に取り組んだ。まだまだ完成度は低いが前進している。次年度も取り組みを継続する。	接遇についての意識が高まるように、研修の実施や全体・個別での指導を実施している。スピーチロックとならないよう、職員間での意識も共有して利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身が選択できるようにお声掛けを工夫し、自己決定ができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	時間でのお声掛け、促し等の支援は行っているが強制はしていない。また、イレギュラーが発生した場合には柔軟に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容ではご本人の好みに合わせたスタイルでおしゃれを楽しんでいただいている。また、ご家族の希望を職員が代弁してお伝えすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備、食後の食器洗いやお膳拭きなどは日常的に行っている。食レクの際には担当の役割をもっていただき楽しんでいる。	準備や片付けなどは、手伝いが可能な利用者到手伝ってもらっている。また、行事の際には利用者の要望を聞き取り、お寿司やケーキなど行事食を提供し、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況をアセスメントし食事形態の見直しなどを随時行っている。個人に合わせて食器の変更や提供方法の変更も行った。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	排せつ表に時間、量を都度記録している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつ表に時間、量を都度記録している。それを参考に排泄パターンを把握することで失禁を予防できるように努めている。また、使うパッドなどは時間に合わせて商品を選択し、コストにも配慮している。	排泄表をもとに、表情やしぐさをみながら声掛けするタイミングを図り、失敗することが少なくなるよう工夫している。また、可能な限りトイレで排泄ができるよう誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に毎日、ヨーグルトを提供し、数種類の体操も行っている。便間隔、状態に合わせた下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本入浴日は決めているが、時間帯などは本人の希望に添えるように支援している。入浴時間も本人の意向に合わせてスケジュールを組んでいる。	基本は水土日以外を入浴日となっているが、本人の希望に添えるよう臨機応変に入浴ができるよう提供している。また、お湯の入れ替えやシャンプー等の使用、入浴剤の使用など、個々に沿った支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不眠の方には眠剤の使用時間を調整したり、医師に相談して量の調整を行っている。また、できるだけ日中の活動量を多くして自然な疲れを感じてもらえるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎にファイルを用意し、薬情、お薬手帳を管理しており、職員は常に目にできるようにしている。また、薬に変更があった場合には申送り表へ記入、申送りで把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事の他、施設内は季節に応じて装飾されている。行事実施後の写真を廊下に掲示し、その時の様子を確認できるようにもしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は感染リスクを避けて、小グループで数回に分けてドライブへ出かけた。全員参加することができた。次年度は外出の回数が増やせるようにしたいと考えている。	コロナ禍のため、小グループでのドライブを実践し、年に1人2回程度外出行事に参加され、戸外に出かけられるよう支援している。次年度は、今年度より外出機会を増やしたり、外食行事ができるように検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されていない場合でも、預かっているお金で嗜好品などを買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて施設の電話を利用していただいている。また、職員が電話を繋ぎ会話していただくこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電色は落ち着ける暖色にしている。各所に温度計を設置し、室温の管理に努めている。昔のTV番組や音楽をかけるなどの工夫もしている。	玄関からリビングに向かって広がるような建物作りで、共有スペースが見渡せる広い作りとなっている。南側からの採光もあり明るく、暖房機器やエアコンも設置されており、室温管理され、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルの他、ソファを設置し、その方の過ごしやすい場所を選択できる。また、隣のユニットの行き来もできる為、別ユニットの入居者様同士の交流もできている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの家具や湯呑などを持ってきていただいている。	電動ベッドとオープンクローゼットが設置されている。自宅で使用していた馴染みの家具を持ち込んだり、お仏壇を持参される方もおり、本人が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部には案内板を設置し、分かりやすいように工夫している。居室内も動線が確保できるようにしている。その他、福祉用具を活用し安全に努めている。		